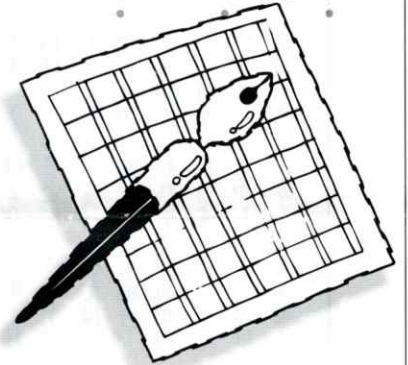


イスラエルと

お会いまで

73 西文卒 篠 輝久



私がユダヤ人や、イスラエルに興味を持つようになったのは、中学生のころだった。当時、私が入学する予定の、京都市内にあった中学校は、市内でもガラが悪いことで有名だった。京都の北に位置するその学区には鉄道が走っており、軌道をへだてた地区から来る生徒達がかなり多い、とのうわさだった。

入学する前のある夜、消防車のサイレンが鳴り続けた。「どこが火事や？」と私。「中学校が火事や。えろう燃えてるわ。あの吹き出してる火の粉を見てみ、すごい量の煙やわ」と近所のおばさんが答えた。話す間にも、小高い丘のふもとには、市内各地から消火に向かう消防車が続々と集結していた。

供に対して「あんた」と呼ぶの行くはずの学校やないか」と近所の人。「だれがあんな学校に行きたいかいな」と、今度は声をひそめて私はつぶやいた。

後で聞いた話では、学校に恨みを持った誰か、多分生徒の誰かが、宿直の目を盗んで体育館に火を放ったとのことだった。番長、けんか、殴り合い、丘の上に呼び出されて上級生のグループに脅されて、ガンを付けた付けないで不良に囲まれて、それが学校での日常茶飯事。この学校での出来事は、かなり嫌な記憶として今も私の心の中に残っている。その後遺症もあって、いまだに中学校時代の同窓会には顔すら出していないのである。

当時流行していたテレビ番組の「ベン・ケシー」の「ベン」は、小説ベン・ハーにもあるように、ヘブライ語で「息子」を意味する。もちろんこの番組の主人公はユダヤ人だ。しかしこ

の有名なテレビ番組が、私の中でユダヤ人やイスラエルへの関心をかき立てたのではなかった。私の心をユダヤ人や、イスラエルに向けたのは、まったく別の一人の少女だった。

天井の低い、仮設教室内で新学期の勉強が始まった。隣のクラスの声も筒抜け。梅雨時のむし暑さは、先生も生徒も汗だくの授業風景だった。私はそれやこれやで、所属していた体育会系のクラブ活動がない日の放課後を過ごすためのすずしい場所を探していた。私が見つけたなかなか快適な場所、それは図書館だった。そこで私はある日、「アンネの日記」に出会ったのだった。

「アンネの日記」の内容は、国語の教科書を通して部分的に知っていた。最初私は、教科書に載っていた明るい感じの挿し絵の影響もあって、この物語をある種の冒険談のように受けとめていた。ナチスから逃れ、彼らの裏をかいて隠れ家に二年一カ月も潜んだ一家。してやったり、ではないか。

しかし私の最初のその誤解は、すぐに解かれた。アンネは日記に記している「ぜったいに外にでられないってこと、これがどれだけ息苦しいものか、とても

言葉には言い表せません」。五平方メートル内に、大人が四人と、大人になりかけの子供が三人。もちろん、隠れ家では、真夏でも窓は閉めたままだった。

「いま部屋中に立ちこめているのは、トイレのおいと、いたんだブラムと、強い防臭剤+腐った卵十個分のミックス……」。

「太陽が輝いています。空は紺碧に澄みわたり、心地よい風が吹き、そしてわたしはあこがれています。——あらゆるものにあこがれています……人」と話したい、自由になりたい、お友達がほしい、ひとりになりたい、そしてなによりも……思いきり泣きたい」

「わたしたちがこういったもろもろの苦難に耐え抜き、やがて戦争が終わったときにも、もしまだユダヤ人が生き残っていないならば、そのときこそユダヤ人は、破滅を運命づけられた民族としてではなく、世のお手本として称揚されるでしょう」

迫害については、このようにも記している。

「もともと人間には、破壊本能が、殺戮(さつりく)の本能があります。殺したい、暴力を振りたいという本能があります」

しかしこの分析の後で、彼女

は内面の感動をこうも記している。

「けさ、窓の前にすわっていると、わたしはふいにさっとんです、わたしたちはたくさんの、たくさんの代償を得ている、と。代償と言っても、内面的な代償のことです」。

彼女は、最悪の時代、最悪の環境にもかかわらず、人間に善をみつけようと努力した少女だった。

あのころ私は、アンネ・フランクから多くのメッセージを受け取っていた。悪しきものに出会った時、私のように、力には力に対抗する、という考えだけでなく、力には知恵をもってしても対抗できるのだと。

このころから徐々に、アンネ・フランクについてだけでなく、彼女の母体であるユダヤ人へ、イスラエルへと、私の関心は広がっていった。アンネ・フランクに出会ってから今日まで、ユダヤ人への好意と尊敬は、私の中で途切れたことはないのである。

(社団法人日本イスラエル親善協会理事)

■引用文献「アンネの日記(完全版)」

深町眞理子訳、文藝春秋刊。

「アンネの伝記」M・ミラー著、畔上尚訳、文藝春秋刊。

続 起業家精神の すすめ

英知大学就職課課長 須澤 晃

起業家、英語でアントレプレナー、仏語でアントレプレヌール。産業革命以後、親方・徒弟制度が解放され、技術の開放が進み誰でも技術を学べるようになった。さらに出現したのが起業家なのである。伝承的技術に頼らず学校にも頼らずひたすら自分の才能と工夫と努力によって産業を作り上げた人々があった。カーネギー、エディソン、デュボンなどであった。革命から約二〇〇年、新しいIT革命などの中に新しい起業家が誕生している。

【企業倫理の遵奉】

前号で、経営の神様松下幸之助は三十年後を想定し、日本人に夢と期待そして警鐘を述べ創造的で一人ひとりが生きがいを感じられる、そのような社会創成を期待したと述べた。

ところが、日本社会のほぼ全域で、立場と私欲に囚われ倫理観の麻痺（モラルハザード）した社会構造であり、われわれ一人ひとりが個人と社会に関する

考え方生き方を見直さなくてはならない状況である。政界の腐敗は言うにおよばず金融業界に続き、食品製造業の危機管理と企業倫理の崩壊はその典型である。その中で、「デジタル」だけが、救世主のごとく社会の全ての運用形態を変えられると注目されている。IT革命の先進国であるアメリカで好景気が続いていると聞けば、日本政府の方針はIT一色となる。この革命がなんのためにどこへ向かって進めるのか理解されないままに……。

経営の神様はさらに「本業に徹しなはれ」と、儲けや流行に左右されたり、本業の不振を補おうと不慣れなことに手を染めることを戒めた。本業で適切な収益をあげ三十年先の見通しがたった時、初めて新たな分野に挑戦すべきであるというのだ。バブル経済期では、本業を捨てさせ淡い夢に取りつかせ誤解させた魔物が働いた。今なお、政治も経済もその後遺症に悩み根治されないまま次へ次へとひた走っている。

大きな企業の組織の中で、また長い歴史の中で、人の命に関わることであるにも関わらず、間違いや過ちや危険の度合いを世に晒すことがこんなにも苦痛

で大変なことで、あたかも「してはならないこと」のようになってしまうのはなぜか。そして、ことあることに見られる共通の現象がある。それは「なかつたことにして……」という考えの処理の仕方である。「なかつたことにして」処理しなければ立ち直れないほど、致命傷なのか、それとも後腐れなく平気な顔で次へ進めるからなのか。起業家にとって危険がある。大樹の狭間で起業し生きようとすれば、同じことになりかねないからだ。起業家は最も企業倫理を遵奉しなければならぬ。自分を守るのには自分しかいないからである。

【第二の人生の設計図】

九十一歳のピーター・F・ドラッカーがミレニアム六月に著書『プロフェッショナルの条件』を発表した。そのパート五「自己実現の挑戦」の中で「第二の人生をどうするか」について述べている。まず第二の人生設計をすることが必要であり、そのためには三つの方法があると。第一に、文字どおり第二の人生をもつこと。新しいことに挑戦すること。第二には、第二の仕事（パラレル・キャリア）を持つこと。本業以外にもう一つ別の世界を持つこと。ポランティ

アとかNPOで働くなど。最後に、ソーシャル・アントレプレナー（篤志家）になることである。自己実現は企業で毎日あくせく働く中ではなかなか難しいことかもしれない。このことをドラッカーは示唆し、ある日突然踏み切るのではなく事前に助走期間を経て設計図を具体化させるべきであると。起業家の出発は、環境変化でやむなく出発するのではなく、徐々に自分に問い、応えを少しずつ出し準備していくことが大切である。

【あなたのメンターは誰】
ところで、最近、よく卒業生の方が就職課を尋ねてくださる。小生、本学に勤務するようになつてこの十二月で七年となる。ご活躍の様子や困った問題のご相談にいられたり、就職課の仕事に終わりのないことを認識させられている。そこでふと感じることがある。あなたのメンターは誰であったか、今誰であるかということ。メンターとは、今日までの自分を導いてくれた人である。人は出会った人によって人生が左右されると言っても過言ではない。起業家は積極的に人と出会うチャンスをつくるものである。そして、愚痴ばかり言って疲れている人からは何も得られないが、エネルギー

を感じさせ輝いて生きている人からは、大きな影響を受け多くを学ぶことができるものである。折に触れ成功と感ぜられたときのメンターは誰であったか、自分の人生のメンターは誰であるか。今、思い返してはいかがか。その人の道程を辿ることは起業のヒントとなるはずである。

【同窓生の皆さんへ】
同窓生の皆さんは、それぞれの中で活躍のことでしよう。第二の人生の設計図を具体化させばつぼつ集大成へ向かわれている方も多いことでしょう。この困難で大変革の時にこそ、後輩のため英知大学の発展のため、お力を発揮されてはいかがでしょうか。ご自分のお仕事の中からご自分にしか出来ないような、ご自分が自信をもってことに当たられるようなことを起業のきっかけにされてはいかがでしょうか。

また、同窓会の役員の中からは、厳しく困難な社会情勢の中、ご自分のことだけでも大変な時に、本当にボランティア精神を発揮し努力されていることに感謝いたします。今後は、ますます多くの同窓生の協力が必要となります。多くの力を結集し英知大学のために発揮されんことを期待いたします。



78 仏文卒 永森 孝夫

こんなに記憶に残るイベントがあつたでしょうか？関東支部発足10年の記念イベントについては前号でご案内しました。さすがというか、やっぱりというか、岸学長に記念のミサをあげて頂けるというのが動機となって過去最高の38名の申し込みがありました。少しでもみなさんに喜んでもらおうと思い、学長ともミサの内容についてやりとりをして準備しました。

いよいよ6月24日がきて、役員が手分けをし、ある者は受付の準備、ある者はオルガンで聖歌の伴奏の準備と、忙しく働いているところへ、学長と一緒に来るはずの役員が1人で来て「学長はいらっしゃいませんでした。1人で来られていますか？」準備をしていた全員が「え!!」それからが大変。ホテルにもう一度確

認すると「チェックアウトされました。お名前はキシヒデキ様です。」といわれたので、ひよっとしたら、他のホテルかもしれないと何軒か心当たりを問いただしましたが、いらっしゃなくて予定時間も追っつてくるし、切羽詰まって今回の目黒教会を手配して下さい、進行役も買って下さった平野さんにこの教会のタチバナ神父にミサをあげて頂けるよう一緒にお願いして、何とかミサをあげることが出来ました。途中、岸学長のご兄弟よりお電話を頂き、学長はめまいがひどく、大事をとって入院されたことがわかりひと安心しました。ミサが終わったとき、皆さんに現状を報告し、次の会場の「香港園」に移動しました。香港園ではいつもの美味しい食事を頂きながら支部総会を進行しましたが、支部総会だけに来られた会員のために、冒頭、学長の件を説明しましたところ皆さんはいかにも残念がられ、同時にお体のことを気遣っていらっしゃいました。ここで改めて報告しますが、幸いにも

も学長はすぐに退院され、また日常のハードワークをこなされていますのでご安心下さい。また、今回は役員の澤田さんが地元に戻ったため、役員の更改を提案し承認されました。関東支部の記念すべき10回目の支部総会はハブニングがあつたにせよ過去最高の会員が出席をし、初めての方も和やかに歓談されたのでまずは成功したかなと胸をなで下ろした次第です。



最後になりましたが、来年からは新しい役員も加わり、全員が心機一転同窓会の発展に力を注ぐ所存ですので、ご支援の程、よろしくお願い致します。



英知祭実行委員長 福満寿子

第37回英知祭が今年も10月31日〜11月3日に行われることとなり、テーマは新しいことを様々な所に取り入れ、チャレンジしていこうという意味で「革命」に決まりました。

私は今年で、3回目の学祭を迎え、学祭実行委員長という重要なポストに立つことになりました。初めは何事に対しても手探り状態でしたが、数々の話し合いを重ねた結果、今現在では自分たちなりに学園祭の土台を固めることができるまでになりました。

年々、実行委員の数が減りつつありますが、その分一人ひとりの学祭に対する意識が強く、今までの先輩方が作り上げていた学祭が更により良いものになるのではないかと思います。学祭についての話を進める上

では、いろんな面で壁にぶつかれることもありますが、学園祭の成功に向かって最後までがんばっていきましょうと思います。最後になりましたが、今年も同窓会の皆様方の協力、先生方やその他学祭にたずさわっていただいた方々に深く感謝致します。また、昨年とはひと味違ったものになると思うので、ぜひ足をお運び下さい。

退官された先生方

席功先生、井上博嗣先生、アンドレ・コレロン先生、三木英先生の4名の先生方がこの春、退官されました。

ホームカミングデーでささやかなお祝いとを考えています。お忙しい中、席先生がご出席いただけますので、ぜひ旧交を温めご恩に報いてください。

長年のご指導に感謝しつつお知らせいたします。



ホームカミングデー

80西文卒 和田 隆

月日の経つのは早いもので、今年も皆様にホームカミングデーのご案内を差上げる季節になりました。

それぞれの思い出の詰まったキャンパスも建物の数こそ増えましたが、皆さんの宝物・思い出の日々の中にはありません。充実した日々を送られている皆さんだからこそ大切な宝物の隠し場所の地図は一人ひとりの胸の中にとまっておられる事でしょう！

来る11月3日の日に宝の地図を開いて、年に一度の宝探しをされてはいかがでしょう？

仲間をイッパイ誘って！

今年も皆さんに英知大学同窓会スタッフはステキなひとときをお持ち頂こうと、いろいろなイベントを考えています。ビンゴゲーム、パーベキ

ユーなどなど、後は来ての、お・た・の・し・み……

卒業された皆さんをこのホームカミングデーはお待ちしています。今年の特典企画（毎年の恒例）は、卒業10年目（1990年/平成2年卒業）・20年目（1980年/昭和55年卒業）・25年目（1975年/昭和50年卒業）・30年目（1970年/昭和45年卒業）の卒業生の方にアニバーサリー・ミーティングとして、さまざまなプレゼントをご用意しています。お友達・お仲間などお誘いあわせの上お越し下さい。スタッフ一同すばらしいひとときを用意してお待ちしています。

日頃疎遠の友人との再会の場としてこのホームカミングデーをご活用してください！卒業生の最高の「待ち合わせの場所」は、誰もが知っている英知のキャンパスの学生

食堂です。開催日時は左記の如くです。

開催日
2000年11月3日(祝)
14時00分開場

ところ
英知大学キャンパス内
学生食堂

会費
3,000円

お支払い頂きます会費は、同窓会の年会費に充当させていただきます。なお、前年度分の会費をすでにお納めの方はご招待とさせていただきます。（同封のチケットをご持参下さい。お忘れなく！）

現在、同窓会の運営において運営費が不足しております。このままですと会の運営も難しく成らざるを得ない財政状況にあり、会員の皆様のご協力を得なければ成らないのが現状です。同窓会としましては入会金・年会費等の会費の徴収には努力をしておりますが、苦しいのが現状です。是非、ご理解を頂き、ご協力・ご参加をお願いします。心から皆様のご参加をお待ちしています。



平素は同窓会活動にご理解・ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。前年度（1999年10月1日～2000年9月30日）に会費を納入いただいた同窓生のお名前を掲載し、お礼に変えさせていただきます。有り難うございました。

【納入のささやかなお礼として「ホームカミングデー・チケット」を同封いたしました。当日、必ずご持参下さい。】

終身会費(30,000円) 納入者				年会費(3,000円) 納入者																		
村野井 キヨ	谷口 千基	潤畑 幸司	赤木 公子	平田 マルエ	北山 暢子	蓮池 昌美	山口 陽子	吉野 正和	前川 朋子	三原 友美	森 美知子	赤尾 律子	鞆野 晋	市川 純子	福岡 義孝	高田 智津子	植田 容子	矢野 幸秀	南部 茂	一文字 秀行	和田 誠記	
濱崎 義行	東 公子	原 久美子	神尾 鈴江	岩井 令子	田中 登美子	大町 暁美	阿部 幸子	岩城 範子	坂口 健治	遠藤 沙織	亀田 京子	南中 由美	川本 泰子	黒羽 幸代	藤本 滝三	泉 啓太	矢野 八重子	秋田 みゑ子	芝 邦浩	川崎 仁子	清水 剛志	
伊藤 久司	大島 弘子	亀井 崇	青木 宏	跡部 桃子	松原 孝夫	北川 耕造	寺川 京子	浜田 浩文	岡林 広晃	渡辺 聡	青堀 美奈子	竹下 三津代	金山 弘樹	世良 孝子	吉崎 光一	吉田 宏司	水野 一也	里見 英一	金子 弘樹	鎌田 修平	岸田 薫	
成田 廣子	黒田 誠		長谷川 桂子	中川 己智子	奥村 幸	夏目 朗	平野 正義	横尾 龍	東 弘之	松丸 由紀奈	井沢 利江	保坂 浩文		秋山 昌子	野村 裕	泉 加代子	大村 浩史	篠原 智子	本田 哲也	桑代 智明	野村 宏機	
浅見 享子	崎山 知二		秋山 昌子	大谷 茂	阿南 慈子	篠原 秀宜	春名 佐江子	木下 雄介	瀧澤 潮	岡村 友子	武本 祥子	米田 園子		服部 悦子	黄瀬 末吉	高田 稔	篠原 秀宜	藤江 康宏	坂田 侑紀子	森川 潤一	長野 麻衣	
水浦 三千代	服部 靖		松本 徹夫	宮崎 信雄	川口 美子	山口千 家子	中野 久美子	菱田 信也	平井 雅		三木 倫子	坂地 和哉		友金 孝介	阪本 健	大塚 淳子	和田 隆	松本 努	服部 靖	齊藤 篤嗣		
高瀬 泰子	山崎 温子		碗 順治	兵頭 喜美子	森 栄一	荒木 みすず	野村 伸司	神尾 訓子	渡邊 千晶		中川 恵子	田中 秀樹		中村 和徳	片瀬 千鶴代	高橋 義弘	香川 万里子	田中 美恵子	田中 直樹	山中 宏志		
永森 孝夫	白根 睦久		中川 秀子	出口 孝	山本 貴子	山本 勉	横山 泰子	山本 勉	横山 亮子		谷口 順子	国仲 志保		山口 文子	池田 貞子	阿部 正孝	山部 一郎	山内 まゆみ	藤田 貴子	堀口 健太郎		
田中 秀典	田村 穂味		岡田 秀啓	塩見 孝子	佐藤 早苗	喜田 正彦	井上 泰利	大洞 三紀	中野 邦彦													

なお、平成12年3月31日付にて、1万円を納入いただいた「ノムラユタカ」さん、平成12年7月11日に、3万円を納入いただいた「アンドウミキコ」さんは事務局へご一報下さるようお願いいたします。また、入会金未納で年会費をお納めいただいた方もおられます。事務局より追ってご連絡を申し上げますが、掲載内容の違ひはご容赦下さい。 ※英知大学同窓会事務局へのご連絡は、Tel.&Fax. 06-6498-6258またはe-mail/sapiens@mbox.inet-osaka.or.jpまで。

2000年度 英知大学同窓会 決算報告

(1999年10月1日～2000年9月30日)

(単位：円)

【収入の部】

費目	金額	摘要
前年度繰越金	4,142,250	
同窓会入会金収入	8,465,000	同窓会入会金収入
同窓会会費収入	1,587,000	終身会費及び年会費収入
名簿売上高	8,000	同窓会名簿売上高
受取利息	19,579	預金利息及び貸付金利息
雑収入	44,090	バザー売上他
合計	14,265,919	

【支出の部】

費目	予算	実績	摘要
旅費交通費	200,000	144,215	関東支部交流他
通信費	1,700,000	1,608,306	名簿郵送費他
監査費	120,000	120,000	会計監査
会費に関するシステム作成費	2,500,000	0	
事務用品費	100,000	54,555	消耗品
支払手数料	50,000	16,800	振込手数料他
会議費	700,000	416,750	役員会議費(年間20回)
事務局維持費	2,000,000	826,548	アルバイト代他
印刷費	2,500,000	2,436,293	会報年2回・名簿追補版・案内状委任状他
OBクラブ開催費	1,200,000	1,123,326	Home Coming Day及び総会
助成金	1,500,000	446,000	助成金
献花費及び記念品費	100,000	295,562	卒業記念品代他
配付金	450,000	350,000	関東支部運営費
雑費	200,000	22,549	写真代他
予備費	13,682,250		次年度繰越金等
合計	27,002,250	7,860,904	

前年度繰越額	4,142,250
本年度収入額	10,123,669
本年度支出額	7,860,904
次年度繰越額	6,405,015

財産目録

(2000年9月30日現在)

(単位：円)

【資産の部】

現金及び預金	現金	
	本部現金	1,545,827
	事務局現金	45,241
合計		1,591,068
普通預金		
	さくら銀行/園田支店 No.3928064	129,407
	さくら銀行/園田支店 No.4053087	3,870,779
	さくら銀行/園田支店 No.4503805	12,295
	さくら銀行/難波支店 No.6386541	410,204
合計		4,422,685
未収入金	貸付返済滞り額	426,230
	貸付返済滞り額	85,032
合計		511,262
資産の部合計		6,525,015

【負債の部】

未払金	監査費	120,000
負債の部合計		120,000

【次期繰越金】 6,405,015

2001年度 英知大学同窓会 予算案

(2000年10月1日～2001年9月30日)

(単位：円)

2001年度 事業計画案

- (1) 同窓会組織の充実及びアイデンティティー(目標)の策定
- (2) 同窓会入会金未収分の徴収と、年会費・終身会費納入の依頼
- (3) 同窓会「会報」の充実

2001年度は上記を目標に活動したいと考えます。

皆様のご協力と、今まで以上のご支援をお願いいたします。

【収入の部】

費目	金額	摘要
前年度繰越金	6,405,015	
同窓会会費	500,000	平成13年度新入生0名 同窓生50名
在校生入会金	9,320,000	1回生307名、2回生58名、3回生61名、4回生199名
年会費	1,200,000	年会費3,000円×400名
終身会費	1,500,000	終身会費30,000円×50名
受取利息	30,000	
合計	18,955,015	

【支出の部】

費目	予算	摘要
旅費交通費	150,000	関東支部交流他
通信費	1,700,000	会報送付・電話代他
監査費	120,000	会計監査
事務用品費	100,000	消耗品
支払手数料	20,000	振込手数料他
会議費	500,000	役員会議費(年間約20回)
事務局維持費	1,000,000	アルバイト代他
印刷費	2,500,000	会報年2回・名簿追補版・案内状・委任状他
OBクラブ開催費	1,200,000	総会及びHome Coming Day
助成金	500,000	実行委員会、クラブ・クラブOB会、クラス会、留学生、土曜講座、会社説明会等
会費に関するシステム作成費	4,000,000	名簿調査・作成費、システム作成費
献花費及び記念品費	300,000	入学・卒業式献花代
配付金	350,000	関東支部・和歌山グループ運営費
雑費	100,000	写真代他
予備費	6,415,015	次年度繰越金等
合計	18,955,015	

※会費振込のお願い…年会費3,000円、終身会費30,000円をお願いいたします。

